

海氷について～天候への影響～

例年1月中旬から下旬にはオホーツク海沿岸に流氷がやって来ます。気象台では流氷初日および流氷接岸初日の観測をおこなっています。流氷初日とは漂流してきた流氷が、初めて見られた日です。流氷接岸初日とは流氷が接岸して沿岸水路が無くなり船舶が航行できなくなった最初の日です。

流氷がやって来ると天候に関して影響があります。海面が海氷に覆われていると海面からの水蒸気の補給が無くなるため雲が発生しにくくなり日照時間が長くなります。海面が凍っていなければ海水温は-2度以上あり、沿岸付近の気温は内陸ほど低くはなりません。流氷が接岸すると海水の熱が大気に伝わらなくなることで、海氷の表面の放射冷却は内陸と同じように起きることなどから、海側から吹いてくる風は暖められることなくやって来るため気温が低くなります。これらの影響により日平均気温の変化も、他の地方では1月末に最低となって2月に入ると昇温するのに対し、オホーツク海沿岸では鍋底のように2月半ばまで低温が続きます。海氷面は地面・海水面に比べ太陽光をより多く反射し太陽エネルギーを吸収しにくいいため暖まりにくくなり、寒さが長く続きます。

海氷が沖合いに広がっていると、風が海面を吹き渡る距離が短くなるため波浪の発達を抑えられます。しかし、発達した低気圧がオホーツク海に進む場合などは波とともに流氷が押し寄せ、大きな災害となることもあるので注意が必要です。

気象庁ホームページの「海氷に関する診断表、予報、データ」のページでは海氷に関する実況、予想、過去のデータまで幅広く提供しています。船舶の安全な航行や流氷観光など様々な場面でご活用ください。

問い合わせ先 網走地方気象台
(電話：0152-43-4349)

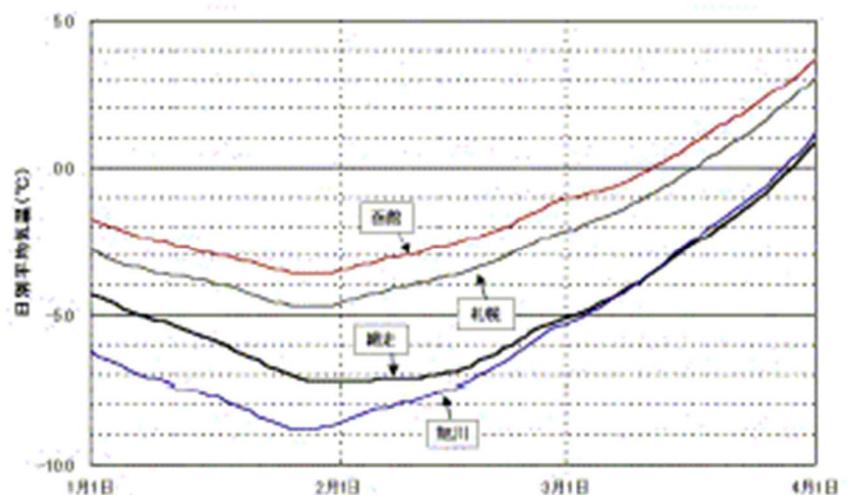


網走地方気象台ホームページ



気象庁ホームページ

「海氷に関する診断表、予報、データ」はこちらから



網走と道内主な都市の1～3月平均気温比較

(気象庁ホームページより)